# 2023年度「自己評価結果報告書」

学校法人　枝光学園
枝光会附属幼稚園

当園ではこの度、2023年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

## Ⅰ. 教育目標

カトリックの精神に基づきながら、子ども達に暖かい雰囲気と良い環境を整え、時代に適した保育を行いたいと考えています。

その為に常に家庭、特に母親との連絡を密にし、神様を愛し、他人をも愛する事の出来る心を養い、自立心や正しい躾を身につけさせたいと願っています。

又、自然とふれあう機会を持つことによって、全てのものが持つ命の大切さを教えると共に、情操教育に重点を置き、遊びの中から明るく素直な思いやりのある幼児に育てることを目的にしています。

## Ⅱ. 今年度の重点目標

●指導計画の作成　●保護者への対応　●健康と安全
●小学校との連携　●カトリック園として

## Ⅲ. 評価項目と取組み状況

| 評価項目 | | 取組み内容 | 取組み状況 | |
|---|---|---|---|---|
| 1 | 指導計画の作成 | ・子どもの興味や関心、これまでの生活の様子、これから予想される生活などを考慮し作成する。詰め込み過ぎの保育ではなく、メリハリのある保育、余裕のある保育、子ども主体の保育を行う。<br>・教育方針、保育目標である「思いやりの心・がまんする心・豊かな心」を育てるために保育内容や行事を考え、行う。少しずつコロナ前の生活にもどし、縦割り保育も取り入れ、異年齢の子どもとの関わりを大切にしていく。 | A | ・子どもが主体となって関われるような環境作りを行った。特に、廃材を利用して自由に製作が出来るようにしたことで、今まで興味がなかったり苦手意識を持っていた子ども達が進んで楽しみながら取り組むようになった。<br>・一年の後半から縦割り保育を行ったが、お互いに迷いや遠慮が見られ、下の学年は憧れや上の学年になる楽しみは持てたが、まだ異年齢の子どもとの関わり方は難しかった。<br>・集団生活の中で、輪から外れてしまう子どもに対して、理由を聞きながら少しずつできるように促し、できた時にほめるようにすることで我慢する心を持てるようになった。 |
| 2 | 保護者への対応 | ・子どもの心身の健康と発達の状態について家庭との連携を密にし、専門機関との連携も図りながら適切な指導を行う。<br>・子どもについて、保育について、参観日や母の会を行うことで、共通理解を得られるよう努め、必要であれば個別に保育の様子や家庭での様子を話し合える個人面談を行う。 | A | ・複数担任制のため、個人面談における情報をクラスの担任で共有することで、家庭での様子など各々の子どもの背景を知り、より理解を深め接することができた。また、専門機関との連携により、子育てに対する保護者の悩みや不安を取り除くことができるよう、子どもの成長を一緒に考え、一人一人に寄り添った保育ができた。場合によっては、園長含め園全体で考えたり、カウンセラーの専門的な話をうかがうことで学びも深まり、保育者として視野を広げることができた。 |

# 2023年度「自己評価結果報告書」

学校法人　枝光学園
枝光会附属幼稚園

| 評価項目 | | 取組み内容 | 取組み状況 | |
|---|---|---|---|---|
| ３ | 健康と安全 | ・登園時は視診、体温チェックを行い、体調が悪くないか確かめ、保育中様子が気になる場合は適切な処置を行い、すぐに家庭に連絡する。<br>・園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はないか、活動が年齢や能力に対して危険でないかなどを常に観察する。 | A | ・１クラス３人の担任で、朝必ず一人一人と挨拶をし、様子がいつもと違う子どもには体温を計り、熱が高い場合は感染症を防ぐために保護者が迎えに来るまで隔離する措置を行った。<br>・園庭の遊具は、月一回の点検を行い、保育室内は子どもの怪我につながらないよう毎日の掃除の際に確認を行った。<br>・使っていない遊具が床にあると怪我につながるので、必ず使わない遊具は一度片付けてから次の遊びをするなど、危険な遊び方を子ども達に確認し、異年齢の子どもと遊ぶ際に遊具の使い方含め教えてあげることができていた。また、年齢があがるにつれ、遊び方がダイナミックになるため、十分に注意しつつ危険なことに発展する前に声をかけたり担任が一人近くで見るなど、安全を確保することを心掛けた。 |
| ４ | 小学校との連携 | ・幼稚園と小学校の先生が共に学ぶ機会を持ち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有して教育の接続を図る。<br>・想像力・創意工夫する力・探求心や表現力・協調性・思いやり・意欲・積極性・乗り越える力・粘り強さなど目に見えない「非認知能力」を保育の遊びの中から身に付けていく。 | B | ・近隣の小学校の先生と共に学ぶ機会が一度しかなく、情報を十分に得ることができなかったが、生活習慣、時間の意識など小学校生活との差が大きくならないよう出来ることは保育の中に取り入れた。また、与えられるだけでなく、自発的に考え、行動ができる土台作りを行った。<br>・製作活動等で、自分で考えて工夫できる環境作りを行い、表現する力を育んだりや意欲的に取り組めるようにした。また、作品を飾ることで、想像力・創意工夫する力が身についた。<br>・一斉保育において、ゲームや競争、グループ活動を通して、ルールやマナーを学びながら、協調性・乗りこえる力・粘り強さを伸ばした。 |
| ５ | カトリック園として | ・子ども達から積極的にキリスト教について質問を聞き、保育者が答えられるよう専門書で調べたり、神父様や園長に聞くことで理解を深める。<br>・祈りのことばだけでなく、先生や子どもの自由なことばでお祈りする時間をつくる。 | B | ・２学期後半より、教会の神父様に年長の子どもは月１回、お話をうかがうことができよかった。もう少し早くから実現したかった。<br>・聖歌の歌詞の難しいことばを子どもたちにわかりやすく説明したり、写真や絵を見せて視覚的に伝えることで理解する子どもが多かった。<br>・お祈りの時間だけでなく普段の保育の中でも、神さまが近くにいらして見守ってくださることを伝えていった。 |

**【評価の基準】**

| | |
|---|---|
| A | 十分達成されている |
| B | 達成されている |
| C | 取組まれているが、成果が十分でない |
| D | 取り組みが不十分である |

## Ⅳ. 今後取り組むべき課題

| | | |
|---|---|---|
| 1 | 指導計画の作成 | ・若い保育者と保育の均質が損なわれないよう、園の保育方針や園が今まで大切にしてきたことを保育者全員と共有すると共に、時代にあわせて新たに大切にしていくことを指導計画や保育に生かす。 |
| 2 | 保育者間の協力・資質向上 | ・複数担任制のため、保育後に各々が見た子どもの姿や遊びの様子を共有し、記録に残す。<br>・クラス内で情報共有の時間を確保し、保育者として経験を積むことで引き出しを増やし、保護者との信頼関係を築いていき、家庭の様子も含めて各々の子どもへの声がけを考えていく。 |
| 3 | 環境・安全管理の強化 | ・保育者自身が環境の一部を担っていることを自覚し、常に保育室の整理整頓を心がけ、収納方法を工夫して、安全で清潔感のある環境構成をしていく。（行事終了後、不要な物は処分し、次年度の担任にきちんと申し送りをする。）<br>・危険が予測される場合は、幼児と一緒に見たり考えたりなどして、安全な使い方や遊び方について気付くことができるようにする。 |
| 4 | 地域への開放と連携 | ・近隣の保育園や小学校と交流をもち、子育て支援や教育内容について理解を深める。<br>・未就園児親子が一緒に遊んだり楽しめる機会を充実させる。（園庭開放、園行事参加、育児相談など） |
| 5 | カトリック園として | ・普段の生活（家庭・幼稚園共に）の中での出来事（感謝する心、頑張ったり我慢するなどの豊かな心、赦すことのできる心、生命の大切さ、生活や遊びのルールなど）から神さまの存在を身近に感じつつ、お祈りの時間にこだわらず、自分のことばで子どもと共に祈ることができるようにする。 |

# 2023年度「自己評価結果報告書」

学校法人　枝光学園
枝光会附属幼稚園

## Ⅴ. 学校関係者の評価

先生方は、子どもたち一人ひとりに深い愛情を注いでくださり、豊かな心を育んでくださいました。また、保育の中で、楽しむ時と静かに耳を傾ける時のけじめの大切さを教えてくださり、自律心と協調性を育むことができました。
製作活動では、子どもたちがアイディアを広げる楽しさを教えてくださり、想像力を引き出す手助けをしてくださいました。
カトリックの行事だけでなく、四季折々の様々な行事を、子どもたちが学びを夢中で喜べる創意工夫を込めて行ってくださいました。
日々のお祈り、先生方のお話、定期的にお呼びいただいた神父様からのお話から、神様がずっと見守ってくださることを知り、神様からの愛を知ることでお友達を思いやる心も育ちました。
保護者とも定期的なコミュニケーションを大切にしてくださり、一緒に考え、親子ともに成長する機会を与えてくださいました。園行事に保護者もお手伝いとして携われる機会を頻繁に設けて頂き、たくさんの大切な思い出を作ることもできました。
恵まれた環境の中で大切な幼少期を過ごせましたことを、幸せに感じております。温かく支えてくださった先生方と、神様のお見守りのもとで過ごせた幸せな時間に、心から感謝しております。

学校評価委員　伊勢戸　麗

学校評価委員　小幡　真由美

学校評価委員　勝見　麻友